

VR 一期生をお迎えして特別講義を開催しました

VR出身者たちはアジア各国で 後進のソーシャルワーク教育に活躍しています



2016年に開設されたアジア国際社会福祉研究所は、日本の論文博士の仕組みを利用して、アジアの研究者たちをビジティンク・リサーチ（VR）としてお迎えしてきました¹。このプログラムで学位授与された3人の研究者たちは帰国後アジア各国で活躍されています。

2025年6月4日、最初のVRとしてお迎えしたワンワディ・ポンポクシン博士（タイ・タマサート大学准教授）が来日し、淑徳大学の授業「世界動向と国際貢献」において「タイにおける保健政策」というタイトルで特別講義をしてくださいました。



受講生の皆さんからは「海外の医療保険の仕組みを初めて知った」、「ご自身のお話として分かりやすく話してくださいだったので、興味を持った」、「タイの保健政策も、日本の山間部と同じようなアクセスやICTの課題を持っていることを知って面白かった」等、英語での資料や説明

という言葉のハードルを越えて好意的な感想が多く寄せられました。

¹ 本プログラムは、残念ながら2024年度より休止中ですが、海外研究者をVRとしてお迎えする新しいプログラムを企画中です。



ポンポクシン先生は、本務校での講義でも特別講師としてオンラインでVRたちをお迎えしているそうです。アジア国際社会福祉研究所には、3月にスリランカで国際会議を主催したオマルペ・ソマナンダ師やワンワディ・ポンポクシン先生のように後進のソーシャルワーク教育や実践家との交流を進め、帰国後も淑徳大学に貢献したい、という声が届いています。彼・彼女たちの研究所への貢献に、深く感謝しています。

(文責：アジア国際社会福祉研究所上席研究員 松尾加奈)